

自ら生き方を希求する態度を育む進路指導

系統的なキャリア発達を支援する進路指導

I 研究の内容

1 研究のねらい

系統的なキャリア発達を支援する進路指導に学校教育活動全体を通してどう取り組んで行けばよいのか、また校長としてどのように関わっていけばよいのか、明らかにする。

2 研究計画（2年計画の二年次）

生徒の「基礎的・汎用的能力」の実態把握のためのアンケート調査を実施し、その結果の考察から、「具体的な進路指導の取り組み」と「校長の関わりのあるあり方」について、研究を深めていく。

3 本年度（二年次）の研究内容

（1）「基礎的・汎用的能力」アンケートの実施

2年生対象にアンケート調査を行い、その結果に基づいて、不十分な能力を伸ばしていくための進路指導上の取り組みを探った。

文科省「中学校キャリア教育の手引き」の「キャリア教育アンケートの一例」を元に、質問項目と「各能力における要素」が一对一に対応するよう、加除修正を行って実施した。

（2）「基礎的・汎用的能力」に関する東山梨地区の生徒の現状分析

ア 全体的には「基礎的・汎用的能力」の4領域とも、良好な結果が出ている。

イ 「他者理解」、「チームワーク」、「自己の役割の理解」では、人との関わりの中で自分の役割を見出し、協力しながら自分の力を集団に活かしていく傾向が高い。

ウ 「リーダーシップ」が低い。集団の中の仲間同士の結びつきや依存度が高く、リーダーとして指導的立場に立つことを避ける傾向がうかがえる。

エ 「主体的行動」はやや低い。協調性を持つだけでなく、確固たる自意識を持った個を伸ばすことを心がけたい。

オ 「計画立案」が低い。物事をきちんと計画を立てて実行する態度が弱い。

カ 「将来設計」が低い。将来について具体的に考えを持つまでに至っていない。

キ 「多様性の理解」が低い。身の回りに多様な生き方や多様な職業が少ないことが大きいのではないかと。

（3）キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」を伸ばすための進路指導上の取り組み案

ア 「リーダーシップ」については、学校生活のあらゆる場面において、小集団の中で自分が中心となってみんなをまとめて行動し課題を解決していくような、リーダーとしての役割の経験を積ませていく。

イ 「計画立案」は、日常的に生徒に計画を立てさせる場面を設定し、計画立案能力を高めていく。また、PDCA サイクルを使い成功体験のスパイラルを仕組んでいく。

ウ 「将来設計（選択）」は、多種多様な職業の人たちを招聘した職業講話、生徒自身が興味ある職業を実際に体験する機会などを数多く設ける。また、自分自身の適性能力を知り、高校調べや職業調べを通して将来に対する関心や知識の増大を図る。

エ 「主体的行動」については、職場体験学習等において、体験場所選びや引き受け先との交渉業務や職場体験全体のスケジュールなどを生徒自身にさせる。

II 成果と課題

1 系統的なキャリア発達を促進させるための進路指導上の工夫や配慮

- (1) これまでの学校教育活動全体を、子どもたちのキャリア発達の支援という観点から見直し、3年間を見通した系統的な計画の下、キャリア4領域の能力を伸ばすための種々の取り組みを効果的に配列して計画立案し、実践を積み重ねていく。
- (2) 進路ガイダンス機能を充実して、個々の子どもたちのキャリア発達に配慮した適切なガイダンスを実施し、主体的に進路選択できる能力や態度を育成する。また、すべての教職員のスキルアップを図る。
- (3) 子どもたちのキャリア発達が、学校・家庭・地域など、あらゆる場面で促されることを社会全体が認識し、互いに連携できるよう協力体制構築を働きかける。

2 キャリア教育推進における校長の役割

- (1) キャリア教育についての研修を実施して全教職員の共通理解を図るとともに、キャリア教育の全体像を全体計画・年間指導計画として示し、キャリア教育の教育課程への位置付けを明確にする。
- (2) 自校の教育課程やその実施状況を常に点検し、学校・学年行事や進路指導等が系統的に配列されているか、バランスよく基礎的・汎用的能力が培われているか、キャリア教育の視点から点検を加えていく。
- (3) 生徒個々の能力の変容や成長を評価する一方、キャリア教育の視点から全教育活動を評価し、次年度の計画の改善に反映させる。
- (4) キャリア教育の取り組みを通して成長した子どもの姿やよさを家庭・地域に発信し既存の組織との連携を基盤として、保護者・地域社会への働きかけと連携を強化していく。

3 課題

2年間にわたる本地域の各中学校のキャリア教育と進路指導についての調査研究から、本地域でのキャリア教育の進展状況や、生徒たちの「基礎的・汎用的能力」の実態、さらには取り組むべきキャリア教育の内容や整備すべき進路指導のあり方、校長の関わりのあり方などについても、おぼろげながら見えてきたように思われる。

しかし、テーマである「系統的なキャリア発達を支援する進路指導」実現のためには、具体的な進路指導全体計画と年間指導計画を作成し、実際に実践して評価を加えていくことが不可欠であり、そのことは今後の課題として残った。

(部長 川崎 敏朗)